

松戸市

地域のつながりが薄い ベッドタウンの地域医療

東葛北部医療圏に属する松戸市。2010年の高齢化率は21.4%と全国平均を下回っていたが、25年には30.5%に急増。それに伴って、10年の医療介護需要を100としたとき、医療は123、介護は195の需要が予想されている。急増する医療介護需要に対し、松戸市では医師会を中心として医療介護連携が進められている。

有床診療所を拠点として

医療と介護の

切れ目のないサービスを提供

在宅医療

医療法人社団 実幸会

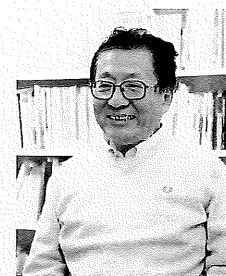
いらはら診療所

高齢者の独居家族や 老老介護への対応

千葉県北西部に位置する松戸市。東京に隣接するアクセスのよさからベッドタウンとして栄え、人口は千葉市、船橋市に次ぐ県内3位の約48・5万人。2015年3月に上野東京ラインが開通したことによって都心へのアクセスが向上、今なお人の流入が続いている。

だが、ここ松戸市もほかのベッドタウンと同様、団塊の世代が多く移り住み、彼らが後期高齢者となる25年には、市の高齢化率は30.5%に上ると見られている。現在もすでに、高齢者の独居家族、老老介護、認知介護が増えているのが実情だ。

松戸市郊外で在宅医療に取り組む医療法人社団実幸会いらはら診療所の苛原実理事長は、「松戸は



苛原 実
医療法人社団 実幸会
いらはら診療所理事長



歴史の浅い住宅地のため、地域のつながりが薄く、高齢者の孤独死なども増えています。地域のつながりに対して、医療機関として何ができるかを常に考えていかなければなりません」と、地域医療の目指す道筋を話す。

外来・訪問・入院に加え 介護施設との連携を重視

1984年に開業した同院は、

在宅医療に取り組むなか、患者の症状が悪化したときや介護疲れの家族のためにも入院機能の必要性を痛感、97年に入院ベッド19床を擁する有床診療所として再スタートを切った。

「患者さんが外来で通院できなくなったから在宅に移行し、在宅での急変時やレスパイトケアが必要となるときには入院する」。有床診療所は在宅医療を進めるうえで最適な形態です」と苛原理事長は話す。

現在、整形外科、内科の常勤医師4人と非常勤医で24時間365日の訪問診療を行うほか、外来診療、入院診療の3つの診療体制を軸に、切れ目のない医療サービスの提供に努める。

だが、独居の高齢者や老老介護の場合、退院できるようになっても自宅でケアできる家族がいらないなど、家庭内の介護力が低下している現状もある。地域の患者が住み慣れた地域で最後まで生活するために何が必要か――。苛原理事長は地域のさまざまなニーズに対応すべく、デイサービス、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などを次々に開設している。

「在宅医療は病気を治すのではなく、患者さんの生活を支え、生活の質を高めることが役割です。そのためには医療の力だけでは十分ではなく、介護・看護との連携が最も重要です。医療と介護が連携することで、地域の介護力が高まり、患者さんを最後まで地域で見守る在宅医療の限界点が上がってくると思っています」と苛原理事長は強調する。

地域包括ケアの構築には 地区医師会の役割が重要

また、地域包括ケアシステムの構築には、地区医師会のリーダーシップが欠かせないとし、「地域を俯瞰して見渡せる公平な組織が中心となって旗振り役を担うことが大切です。医師会が動く、市町村が動きまわります。そして、地域住民や多職種とも協力して取り組むことで、地域のケア力が高まっていくと思っています」と苛原理事長。

現在、松戸医師会では、在宅医療連携拠点事業を市から受託し、積極的に在宅医療の推進、医介連携の強化を進める。そのプロジェクトには、在宅医療従事者に対する負担軽減の支援も盛り込まれている。

「松戸市は全国のなかでも在宅医療が充実した地域ではあります。が、高齢者が急増するなか、まだまだ充足しているとは言えません。医師の負担をどうやって軽減していくかを含めて、在宅医療に携わる従事者の育成、後継にも努めていきたい」と苛原理事長は話す。

エリア2

「つくばエクスプレス」沿線の流山市に ファミリー層を中心に人口増加が続く

「千葉県内で人口増加率が1位の流山市は、特に勢いのあるエリアとして注目されています。2005年8月に『つくばエクスプレス』が開業したことで都心へのアクセスが格段に向上し、緑も豊かなエリアとして人気を集めています。市も子育てがしやすい環境を全面にアピールしており、30代から40代のファミリー層を中心とした流入が目立ちます。それに伴って、流山おおたかの森駅の周辺などは、開業の相談も多い地域となっています。

水更津市も動きのあるエリアの1つです。東京湾アクアラインの効果で都心や川崎・横浜へのアクセスが良好になったことから、大型商業施設や大規模住宅開発が進んでおり、人口増加率も高くなっています。

また、圏央道や2017年度に予定される外環道『三郷南IC～東関東・高谷JCT』の開通も注目のトピックスと言えるでしょう。人やモノの流れが変わることによって、新たな地域開発、人口流入なども期待できます。